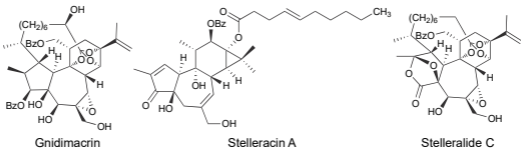


# 23T-pm08

イモガンピから得られた新規 gnidimacrin 類縁体の構造と LTR 活性について  
○江口 啓介<sup>1</sup>, 岸本 直樹<sup>1</sup>, 加藤 光<sup>1</sup>, 三隅 将吾<sup>1</sup>, 渡邊 高志<sup>1</sup>, 塚本 佐知子<sup>1</sup> (<sup>1</sup>熊本  
大院薬)

【目的】 HIV は宿主細胞に潜伏感染するため、現在の抗 HIV 薬では HIV を完全に体から除去できない。そこで、潜伏 HIV を再活性化させて体内から排除する HIV 根治療法の確立が求められている。そのためには、潜伏 HIV を再活性化 (LTR 活性) させることのできる薬剤が必要であるが、未だ理想的な薬剤は開発されていない。そこで、我々は天然資源から潜伏 HIV を再活性化させることのできる化合物を探索している。ネパール産植物イモガンピ (*Stellera chamaejasme* L.) に含まれる gnidimacrin (**1**) は、強い抗 HIV 活性を示すことが知られている<sup>1)</sup>。そこで本研究では、イモガンピ成分を精製し LTR 活性を調べる。

【方法・結果】 イモガンピを MeOH で抽出し、抽出物を EtOAc と H<sub>2</sub>O で分配した。得られた EtOAc 層を *n*-hexane と 90% MeOH-H<sub>2</sub>O で分配し、90% MeOH-H<sub>2</sub>O 層を精製して 8 種の既知ダフナン型ジテルペノイドに加えて新規ジテルペンを得た。また、*n*-hexane 層から別の新規セスキテルペンを単離した。現在、これら新規化合物の構造と活性について検討している。



1) Y. Asada *et al.* *Org. Lett.*, **2011**, *13*, 2904–2907.